

# スイス連邦工科大学ローザンヌ校 (EPFL) 留学報告書

東京大学大学院 工学系研究科

技術経営戦略学専攻 修士1年 多田羅千里

## 1. 留学先大学の概要

スイス連邦工科大学ローザンヌ校は、スイスのフランス語圏、ローザンヌに位置しています。スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (ETH) の姉妹校で、工科大学として国際的にも高い評価を得ており、2018年度のQS世界大学ランキングでは世界12位に選出されています。

学内はかなり国際色が強く、特に私の所属していた修士課程においては、受講したどの授業においてもスイス出身の学生は1割もおらず、フランスをはじめとする様々な国の学生が集まっていました。そのため修士課程の授業は基本的には英語で行われます。

施設面は申し分なく、日本の建築家により作られたロレックス・ラーニングセンターをはじめ、自習のできる居心地の良い環境が整っています。EPFLの修士課程では2年間で120単位を取らなければ卒業できないこともあり、学生の学業への真剣な姿勢は留学初期に驚かされたことの一つでした。授業のグループワークにおいて競うように貢献する学生に囲まれた環境はとても刺激のあるものでした。

## 2. 留学への準備

### 2.1 学内選考

工学系の派遣プログラムの応募手順は全て [OICEのウェブサイト](#) に掲載してあります。派遣先大学の締め切りの約1ヶ月前が書類提出の締め切り日となっており、私の場合3月中旬に書類を揃え応募をしました。受験書類のうち、TOEFL または IELTS の証明書、留学計画は時間がかかるため早めに用意しておく必要があります。書類提出後は東大内での選考として英語面接を行い、その後派遣先の応募プロセスに従います。私の場合、4月中旬に EPFL のオンラインフォームから応募し、5月中旬に受け入れのメールが届きました。

### 2.2 奨学金

留学生は JASSO から月 8 万円の奨学金の給付を受けることができます。JASSO の奨学金は応募後に国際交流チームの方に手続きをお願いする形となるので、他の奨学金と違い急ぐ必要はありません。ただ、月 8 万の奨学金は留學生活をする上で十分とは言えないので、早めに他の奨学金に応募すると良いと思います。私は留学への決断が遅く応募できなかったのですが、他の奨学金は冬頃までに締め切りのものが多い印象です。

## 2.3 寮

EPFL の場合、大学が提供している [FMEL](#) という寮に留学生は優先的に入ることができません。留学生受け入れのメールと同時期に住居の案内のメールが届くので、頻繁に確認すると良いです。寮希望に関するフォームに記入すると、空きがでたら手続きの連絡が来ます。指示に従って手続きを行いました。

## 2.4 持ち物

私は 9 月に渡航したため、8 月頃から持ち物の準備を始めました。準備をするにあたり、スイス留学に関するブログ等がとても参考になりました。日本において必ず用意しなければならないのは在留届に関する書類になります。州によって用意する書類が異なるので確認が必要ですが、銀行口座の残高証明はあらかじめ用意しておく必要があります。また、携帯電話の解約・停止または sim ロック解除など携帯電話に関すること、また、クレジットカード・銀行口座等にも注意を払うと良いです。

## 3. 渡航後の手続き

渡航後に行ったことは主に以下です。

- ・ 在留手続き（渡航後 2 週間以内）

スイスの留学ではビザを取る必要はなく、渡航後に在留手続きを行う必要があります。在留手続きには多くの書類が必要となるので、州によって異なる提出書類を確認し、用意しておく必要があります。

- ・ sim 購入

- ・ 交通手段の確保

私は通学のため EPFL 構内にある自転車店で自転車を購入しました。中古自転車を 130 フランで購入でき、加えて返却時には半額の返金がなされます。また、私はスイスの他の都市にも頻繁に旅行に行くため、demi tariff という全ての電車のチケットが半額になるチケットを購入しました。私は自転車通学のため購入しませんでした。電車/バス通学であれば定期券も有用であると思います。

- ・ 保険手続き

- ・ 住民税免除申請（住民税請求の封筒が送られてきた際）

## 4. 留学生活

### 4.1 環境

冬の期間の留学であったため、寒さに関しての不安はありましたが、極寒というわけではなく、寒くても-2度程度までしか下がりません。美しいレマン湖とアルプスに囲まれ、個人的にとっても素敵な環境だったと思っています。寮はフラットシェアという形で5人の学生と住んでいました。国籍もドイツ、イタリア、コロンビア、スイスと多様で、キッチンなどは共用で使うのでとても仲良くなることができました。FMELでは一人で住むアパートを選ぶことができますのですが、様々な国籍の学生と共同生活をするのも留学生活の醍醐味かと思っています。

一方でスイスの唯一の欠点は物価が高いことでした。外食するとなると日本の約1.5倍の価格となるので、基本的に自炊を行っていました。また、スーパーマーケットを含むほとんどの商業施設では日曜が休業、平日も18時や19時頃には閉まるので注意が必要でした。ローザンヌ在住の日本人のコミュニティー等も存在するので、生活面でのサポートのため活用すると良いと思います。

### 4.2 学業

EPFLの学生の授業に対する真剣さは驚くほどでした。私はグループワークがある授業を積極的に選択していたのですが、グループメンバーは競うように課題に取り組みます。主体的な学生に囲まれた環境は学習環境として最高でした。私は Management, Technology & Entrepreneurship(MTE) という専攻のもと、経済学、SCM、マーケティングなどの授業をとりました。演習・実践形式が多く、例えば、Operations: economics & strategy という授業はローザンヌにあるお店等のローカルビジネスを一つ選択し、講義で学習した理論を応用して、事業改善の提案を行うという内容になっており、グループでのディスカッションはもちろん、お店の人へのヒアリング等も行う、大変面白いものでした。修士の場合、基本的に授業は英語で行われます。クラスの学生の国籍は様々で、英語ネイティブではない学生が大半だったので、英語圏よりはディスカッションのハードルが低いかと思っています。とはいえ、ヨーロッパ圏の学生の英語力は非常に高かったです。スピーキングに苦手意識を持っていた私の場合、作業など自分の貢献できる部分から順々に取り組むことで、少しずつ議論への参加度合いを増やせるよう努力しました。

### 4.3 語学

英語に関して、苦手意識のあったスピーキングですが、寮や大学で話す機会が多くあるため、正しくないとしても、伝える能力や話す姿勢は身についたと思います。

ローザンヌはフランス語圏なので、フランス語も学ぶ環境が整っていました。大学では語学のクラスがセメスター中、休み期間中の双方で開講されています。私の留学期間は9月か

らの半年間(1 セメスター)でしたが、セメスター終了後の休み期間である 2 月初旬の 2 週間のフランス語インテンシブコースを受講しました。習熟度別に開講されているので自分のレベルにあった授業を取ることができます。同じクラスの学生と仲良くなれるので、日程の面で可能であるなら、セメスター前の 8 月/9 月のコースをとる方がいいかもしれません。

授業以外では、EPFL の隣に位置する UNIL という大学が運営している[タンデム](#)というシステムもおすすめです。学びたい言語の話者同士をマッチングするサービスで、例えば、日本語を学びたいフランス語話者を見つけ、一緒に勉強することができます。タンデムのパートナーとはとても仲の良い友人になることができました。

#### 4.4 娯楽、旅行

EPFL では [ESN](#) という団体が様々なイベントを運営しています。パーティ、登山、スキー等様々なイベントを企画しており、比較的安価で参加することができます。私は留学最初の新入生の交流会に参加しましたが、様々な留学生と知り合うことができる良い機会でした。

また、ヨーロッパ圏内であれば数時間で安く旅行に行くことができます。せっかくの機会なので、週末や数日休みが取れる日は旅行を楽しみました。

### 5. 就職活動

私は学年を落とさずに卒業しようと考えていたため、就職活動は大きな不安要素で、留学に行くかどうかをかなり直前まで悩みました。外資系の就職活動は夏休みに始まり、1 月頃に収束します。そのため、選択肢としては、夏のインターンシップの参加、11 月に行われるボストンキャリアフォーラム、または個別に企業に対応してもらうことが挙げられます。私は夏のインターンシップに参加するため、出発時期をギリギリまで遅らせ、また、ボストンキャリアフォーラムにも参加しました。個別に対応してくれる企業もあるかもしれませんが、基本的に、完全に一から対応してくれるところは少ない印象です。ボストンキャリアフォーラムは通常の国内選考よりも学生の状況に対応するため、かなり柔軟な選考フローをとっている企業が多いですし、たくさんの企業に 3 日間で触れられるというのはとても魅力的な場であると思います。一方で、多くの企業が当日のみの面接で内定を出すわけではなく、その後インターンシップに参加しなければならなかったり、日系企業は卒業年度の制限があったりと、制約条件も多いので注意が必要です。

結果として、私は、国内のサマーインターンに参加後 [Skype](#) 等で選考を行った企業、ボストンキャリアフォーラムでの選考後、一時帰国し最終選考に参加した企業からオファーをいただくことができました。ただ、正直なところ容易ではなく、負担にもなっていたので、留学に集中したい場合は 1 年下ろすことも視野に入れた方が留學生活を有意義に過ごせるようにも思います。就職の制度が今後また変わっていくかと思うので、参考程度に捉えてください。

## 6. 留学を終えて

留学を終えて約1ヶ月が過ぎました。私の留学の目的はハードな環境で学習することに加え、英語や自己表現等の自身のコンプレックスに向き合うことにありました。それらが大きく解消されたわけではありませんが、慣れない環境でも自分が頑張れ、周りに貢献できる経験はできたので、自分の力で生きられることを確認できたという意味で強くなれたのかなと思います。終了後だから言えることですが、様々な懸念点が、動いてみればなんとかなりました。留学の目的は様々ですし、その思いの強さも人それぞれだと思いますが、留学をしてみても大きなデメリットはなかったので、迷っている方は行ってみることをおすすめします。

この体験記が留学への決断、留学準備の一助となれば幸いです。